

# 計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

## 会報 2011-11

発行日：平成23年11月15日

発行元：（社）計画・交通研究会

### 目次

Opinion .....	1
航空ビッグバン	
News Letters .....	3-5
事業報告・活動報告	
Backyard .....	6
事務局通信	

## □ Opinion

## 航空ビッグバン

黒野 匡彦  
(財団法人 運輸政策研究機構 会長)

日本の空が大きく変わろうとしている。

まず首都圏空港の解放である。昨年10月の米国を皮切りに、この一年間で実に11カ国との間でオープンスカイ協定が締結された。交渉継続中の国もあり、その数はさらに増えることは間違いない。驚異的なハイスピードである。11カ国というのは、国の数では3割程度に過ぎないが、旅客数で比較すると全体の6割に達する。世界的に不安定な経済情勢に原発問題という悪材料が加わって、期待したよりもローペースとなろうが、首都圏の空港へ乗り入れるエアラインと路線は着実に増えていくであろう。

もう一つはLCCである。世界の流れにあきらかに遅れを取っていたが、いよいよ和製LCCがテークオフする。成田空港では、先月下旬にまず国内線での運航が始まった。これから来年にかけて3社の和製LCCが、国際、国内双方で本格的に就航する予定である。

かねてからわが国の空の閉鎖性は批判の的にされてきた。成田、羽田の両空港では文字通り1便の増便さえ難しいという状態のもと、内外のエアラインに空を解放することは物理的に不可能であった。特に、機材の効率的運用をコストダウンの大きな柱にしているLCCは、自分の都合のよい時間帯に発着枠を入手できなければ事業が成り立たないのである。

昨年10月を境に、この事情が一変した。

両空港の整備の進捗と周辺地域の理解により、空港容量が大幅に拡大することとなった。

なかでも国際線は、年間発着枠の上限が20万回であったものが、成田27万、羽田9万、あわせて36万回に大幅に拡大する目途が立ったのである。メディアからは、羽田の再国際化という分かりやすい切り口での情報発信が目立った。それはそれで旅客利便の面では画期的な前進であるが、マクロでみた場合、空港容量の拡大がもたらす影響の方がはるかに大きいといえる。

オープンスカイも、和製LCCも、この空港容量の拡大によって実現したのである。いよいよこれでわが国の空も本格的な競争の時代に突入する。遅ればせながら、航空の世界も「ビッグバン」を迎えたのである。

空港制約というバリアーに囲まれて、わが国の航空マーケットは基本的には売り手市場で推移してきた。本邦エアラインは、彼らが望んだわけではないが、結果として厳しい国際競争から隔離されてきた。空港制約が防波堤の役目をはたしてきたのである。その防波堤が消えたいま、低コスト、低料金を武器としてアジアのエアラインが津波のごとく攻め入ってくることを覚悟しておかなければならない。

国際路線だけでなく、国内路線も同じである。EU諸国間を除いて全面的にカボタージュを認めている国はない。わが国も同様である。しかし、国内のファンドと手を組むことによって、外国のエアラインが、適法とされる三分の一以下の資本持ち分で事業運営の主導権を握ることは十分に可能であり、社会的にもそれを脱法行為として非難する風潮は薄れてきていると感じ

られる。むしろ本邦エアラインが見捨てた地方空港では、国内路線についてもアジアのエアラインに期待を寄せる向きさえある。

これからの数年間、内外のエアラインが入り乱れて熾烈な競争が展開されるであろう。しかも競争のポイントは運賃であるから、体力勝負の運賃引き下げ競争となろう。この「カオス」の状態が延々と続くのか、運賃の低下が需要の拡大をもたらし、いわば膨らんだパイを分け合う形でそれなりに落ち着くのか、はたまた、厳しい優勝劣敗の結果、生き残った顔ぶれが一変するのか、ここで予測することは難しい。何が起きてても不思議ではないのが、これからの航空産業である。

いずれにしても、本邦エアラインが、旧来のビジネスモデルから大胆に脱皮することによって、勝者としてカオスの状態から抜け出すことを期待するものである。

航空ビッグバンは、空港間競争にも大きく影響する。

このままいけば空港も港湾と同じように韓国の後塵を拝することになるとの警鐘が鳴らされ

ている。空と海とでは事情を異にするとはいえ、厳しい競争下にあることは同じである。

国際競争の場では、羽田では仁川に対抗できない。深夜早朝という使い方が難しい時間帯の3万回を加えての年間9万回の容量では、20万回を超える発着実績を誇る仁川のライバルにはなり得ない。民間資金も投入して羽田を再々拡張すればとの提案もあるが、湾岸の陸上部の飛行制限が厳然として存在する以上、大幅な容量拡大は期待できない。

空港間競争では日本代表はやはり成田ということになる。従来から、容量不足が成田のアキレス腱であった。このハンデイから開放され、やっと対等な条件のもとで戦える環境となった。しかし、同時に羽田の再国際化という新たな事態が発生した。両空港間の国際路線の配分の仕方によっては、成田の競争力、特に際々ハブ空港としての競争力が少なからず影響を受けることは避けられない。

成田と羽田の関係をどう整理するのか。「一体運用」という抽象的なスローガンで取り繕うのではなく、客観的事実と情報に基づいて、両空港のあり方を具体的に論議すべき時期に来たといえよう。

■2011年9月 計交研・当て塾共催セミナー  
(第XI講・第9回)

●日時：平成23年9月14日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

復習を兼ねて

②東洋大学国際地域学部教授 金子 彰 氏

カンボジア観光視察報告

●参加者：12名（うち計交研関係5名）

〔講義概要〕

◆復習を兼ねて（鈴木忠義）

この一月あまりの間に、社会の動きを考える機会を得た。その二三（いずれも読賣新聞）を、「観光原論」の論旨に当てはめてみた。新聞の読み方の話でもある。

1. ドラマ「おひさま」評（文化欄2011.8.2）

感動を与えるドラマの視聴率が高くなることは観光原論の「観光の基本式」に通じ、ドラマの製作は「演劇の要素からみた観光の整理」と関連する。感動をキーワードにすることで、観光地のあるべき姿を学ぶことができる。

2. ドラッカー評（佐々木常夫2011.9.4）

著者は“‘なんともドラッカーは罪作りな方である。’”としている。ドラッカーは財界には歓迎されていないようだ。本というものは、読んで考える、良いところを学ぶことが大切である。

3. 「公欲」意識（コラム 山内昌之2011.8.31）

著者は、新政権に対して、「『公欲』意識を高めるよう、国民に説いてほしい。」と期待を述べている。「公欲」は観光原論で示す「観光の三主体」と「観光の意味論」（三つの主体のそれぞれにとっての意味）に関連する。このコラムは、著者の鋭い指摘が光っている。

◆カンボジア観光視察報告（金子 彰）

東洋大学国際共生社会研究センターが海外研究として実施した視察結果及びカンボジア観光について概解した。

〔報告目次〕

・研究目的／期間／視察団メンバー／概要

・プレア・ビヒア寺院と周辺の土地利用区域

・ベンメリア／コンケーン遺跡

■2011年9月 計交研・当て塾共催セミナー  
(第XI講・第10回)

●日時：平成23年9月28日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

観光原論補講：観光の進化を考える

②（株）要松園コーポレーション 土沼隆雄氏

ポートランド日本庭園のディレクターシステムが果たした役割・意義と国際交流の多面的効果

●参加者：24名（うち計交研関係8名）

〔講義概要〕

◆観光の進化を考える（鈴木忠義）

観光原論の結びとして、下記のようなことを書きたいと考えている。

1. 誰が観光をしているか

一部の人たちの旅が中心であった観光は、移動手段の進歩によって大衆化・大量化した。

2. その形態は

観光の形態は、鉄道や道路など大量輸送が可能になったことで大きく変化した。

3. その時間と空間（対象）は

観光地はアクセスが容易になることで開発が進み、移動時間が変化することで変貌する。

4. 与件の変化

文明の発達により、移動等の手段は変化する。それに伴って費用も変わる。人々の労働条件と余暇も変化する。さらに、テレビ等によって代理体験が発達し、観光の目的も変化する。このように、多くの与件は変化する。

5. 進化の対象

観光者は、体力やライフステージ、教養によって楽しみが変わる。地域や商業も変化する。専門家は、この変化を研究する必要がある。

◆ポートランド日本庭園のディレクターシステム（土沼隆雄）

アメリカのオレゴン日本庭園協会が運営する

ポートランド日本庭園のディレクターシステムについて、解説した。

〔報告目次〕

1. ポートランド日本庭園の概要
2. ディレクターシステム
3. 庭園を核とした国際交流

## ■2011年10月 計交研・当て塾共催セミナー (第XI講・第11回)

●日時：平成23年10月12日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

- ①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生  
観光原論補講：観光の基本式の深化
- ②(財)日本交通公社 岩佐吉郎氏  
都道府県の観光振興政策に関する研究

●参加者：11名(うち計交研関係4名)

〔講義概要〕

### ◆観光の基本式の深化(鈴木忠義)

#### 1. 観光の基本式 \*解説の言葉を3箇所修正

$$i = \frac{mO}{\text{感動=動機づけ} \times \text{観光対象} + \text{準備} \times \text{条件} + \text{センス}}$$

#### 2. 観光者のセンス(s)

基本式の中の「センス(s)」の補足を行った。

##### (1) 旅は自分の心ざまによるものだ(幸田露伴)

タイトルは、旅は雪の時も雨の時もそれなりの風情があり、自分の受ける取るものによるということである。観光の基本式のセンスである。

##### (2) 旅の喜び

観光には、準備－実行－思い出という段階での喜びがあり、各段階でセンスを磨く必要がある。そのため、教育に「芸育」を加える必要があると考える。

##### (3) 旅は風景以上のものを暗示する(安部公房)

山々の風景を森林資源と見る人がいる。土地利用やまちづくりに、人間にとっての意味論からの「思想－発想－構想」が必要である。

##### (4) 旅へのモチベーション

生きるために移動した採取行動のDNAが残っており、現在でも土産を抱えて帰ってくる。

### ◆都道府県の観光振興政策(岩佐吉郎)

2010年度の(財)JTBの自主研究「都道府

県の観光振興政策に関する研究」を概説した。

〔報告目次〕

1. 高まる観光行政の重要度／2. 多い「経済振興策としての観光振興」／3. 観光予算
4. 観光振興条例と観光振興計画／5. 観光振興のための関係会議開催状況／6. 目標設定と観光実態の把握／7. 観光振興の重点施策／8. 効果的な事業施策／9. 今後の課題

## ■2011年10月 計交研・当て塾共催セミナー (第XI講・第12回)

●日時：平成23年10月26日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生  
世田谷川場縁組協定30周年記念誌  
「都市と農山村の交流」

●参加者：14名(うち計交研関係6名)

〔講義概要〕

### ◆都市と農山村の交流(鈴木忠義)

世田谷区と川場村が縁組協定(区民健康村相互協力に関する協定)を締結(1981年11月)して30年が経過したことを記念して、「都市と農山村の交流」が出版された。目次は下記のようなものである。この本は、自治体をはじめ多くの方々に参考として頂くため、単なる記念誌ではなく、なぜ「健康村」が構想されたか、「ふるさと村」の概念は何かを第1章で解説した。

ここでは、健康村事業がどのような社会的ニーズに対応しているか、また、国のインフラ整備と関係して立地選定を行っていることなど、健康村事業の背景となる事項が把握できるよう主要事項を抽出した年表などにより解説した。

この本を読んだ自治体等の方が、川場村へ行ってみよう、あるいは、こんな交流事業なら自分達でもやってみよう、となれば幸いである。

【目次】

はじめに

#### 第1章 都市と農山村の交流事業 その概念

1. なぜ「ふるさと村」か、なぜ「健康村」か
2. 事業推進のための「プロジェクト・チーム」の発足
3. 区民健康村の概念

## 第2章 実施の経緯

1. 概念の研究／2. 候補地の選定～川場村との縁組協定／3. 2つの施設

## 第3章 交流事業

1. 変遷と交流事業／2. 交流事業の歩み
3. 現在の交流事業

## 第4章 ふるさと公社の概要 / あとがき

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■秋の現場視察会

11月24日—25日に、静岡県域で三島市のせせらぎ事業、伊豆縦貫道、清水港、新東名高速道路、浜岡原子力発電所、静岡—浜松ガスパイプラインなどの現場を訪ねるほか、静岡県の幹部の方々から防災を含めた県事業につきご紹介いただくことになりました。

参加者は30人強となる見込みです。

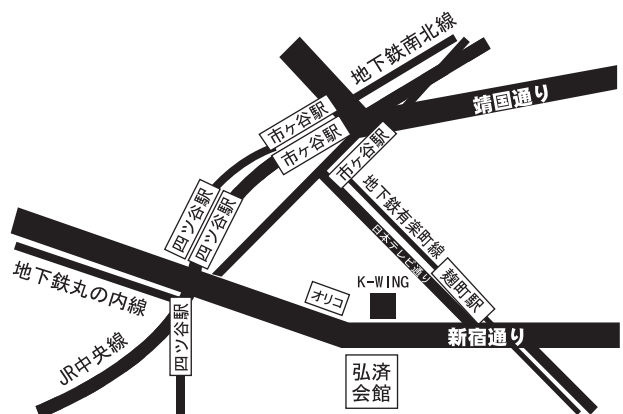
■特別講演会と懇親会

恒例にしています毎年末の開催は、年明け後2月頃に延期して行なうべく準備中ですので、テーマ、ご講演者などが決まり次第後日ご案内いたします。

(社) 計画・交通研究会

会長	森地	茂
副会長	石田	東生
副会長	家田	仁
副会長	屋井	鉄雄
事務局長	水野	高信
会報編集委員長	日比野	直彦

〒102-0083  
 東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F  
 TEL=03-3265-1774  
 FAX=03-3221-5489  
 E-Mail=  
[jimukyoku@keikaku-kotsu.org](mailto:jimukyoku@keikaku-kotsu.org)  
 Homepage =  
<http://www.keikaku-kotsu.org/>



(社) 計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分  
 弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。